

# 4. 秋の万葉植物(旧暦7月-9月)

# 現代名 クヌギ 栲

つるばみ 椽

万葉集 卷18-4109 大伴家持：



紅（くれない）は  
移ろふものそ  
椽（つるばみ）の  
濡れにし衣に  
なほ及（し）かめやも

2020年7月31日撮影 上水くぬぎ橋

# 現代名 クズ 葛

## くず 葛

万葉集 卷14-3422 作者不明：



くろほ || 赤城山

かみつけの  
くろほの峰(ね)ろの  
葛葉がた  
愛(かな)しけ子らに  
いや離(ざか)り来る

2020年8月20日撮影 玉川上水土手

# ヤマノイモ 山野芋

## ところ 冬薯蕷

卷7-1133 作者不詳：

皇祖神

(すめろき)の

神の宮人

冬薯蕷(づら)

いやとこしくに

我れかへり見む



2020年9月10日撮影 上水くぬぎ橋付近



# ニラ 菰

きはつく は茨城真壁郡説



2020年9月17日 玉川上水土手

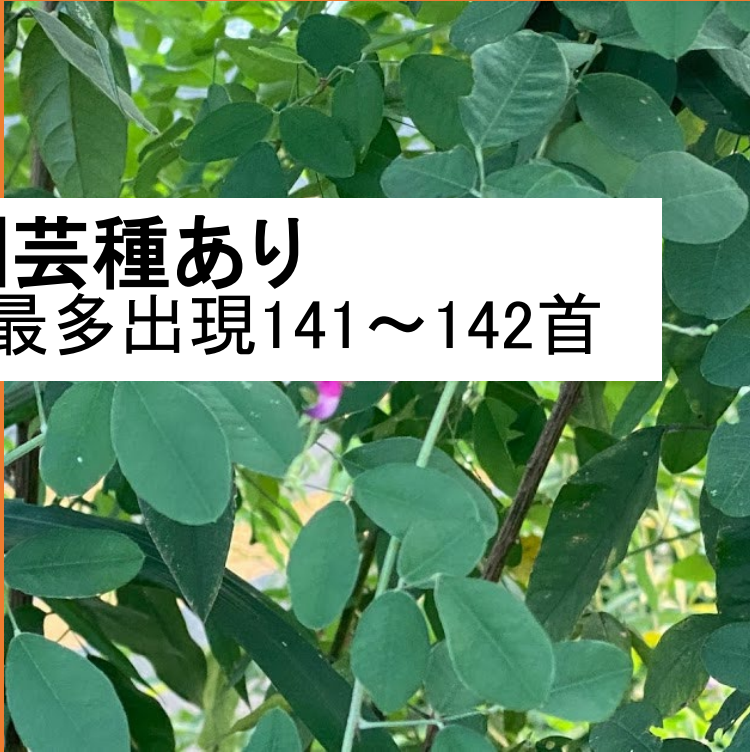
くく「み」ら 菰茎

卷14-3444 作者不詳 東歌

きはつくの  
岡の菰茎  
我れ摘めど  
籠(こ)にも満たなふ  
背なと摘まさね

# ハギ 萩

## 集中最多出現



萩と園芸種あり  
葉集で最多出現141～142首

# はぎ 萩

## 巻10-2125 作者未詳

春日野の  
萩は散りなば  
朝東風(こち)の  
風にたぐひて  
ここに散り来(こ)ぬ

2020年9月21日 上水平右衛門橋付近

ヒガンバナ 彼岸花説有り  
別名 曼珠沙華  
毒草 中国原産 史前渡來說



いちし 壺師

万葉集 卷11-2480 柿本人麻呂：

道の辺の  
壺師の花の  
いちしろく  
人皆知りぬ  
我が恋妻は

2020年9月21日撮影 玉川上水土手



現代名 イタドリ 疼取 説あり  
世界の侵略的外来種ワースト  
100



2020年9月21日撮影 玉川上水土手

いちし 壺師

卷11-2480 柿本人麿：

道の辺の  
壺師の花の  
いちしろく  
人皆知りぬ  
我が恋い妻は

# ススキ 薄

きばな 尾花

巻8-1564 日置長枝娘子 :



秋づけば  
尾花が上に  
置く露の  
消(け)ぬべく我は  
思ほゆるかも

2020年9月22日撮影 玉川上水周辺



現代 屋根ふきの植物一般  
画像はススキ(代表的な萱)



2020年9月22日撮影 玉川上水周辺

かや 萱

万葉集 卷16-3887 作者不詳

天なるや  
神楽良の小野に  
萱草刈り  
草刈りばかに  
鶉を立つも

現代名 エノキ 榎

え 榎

卷16-3872 作者未詳：

我が門の

榎(え)の実もり

食(は)む

百千鳥(ももちどり)

千鳥は来れど

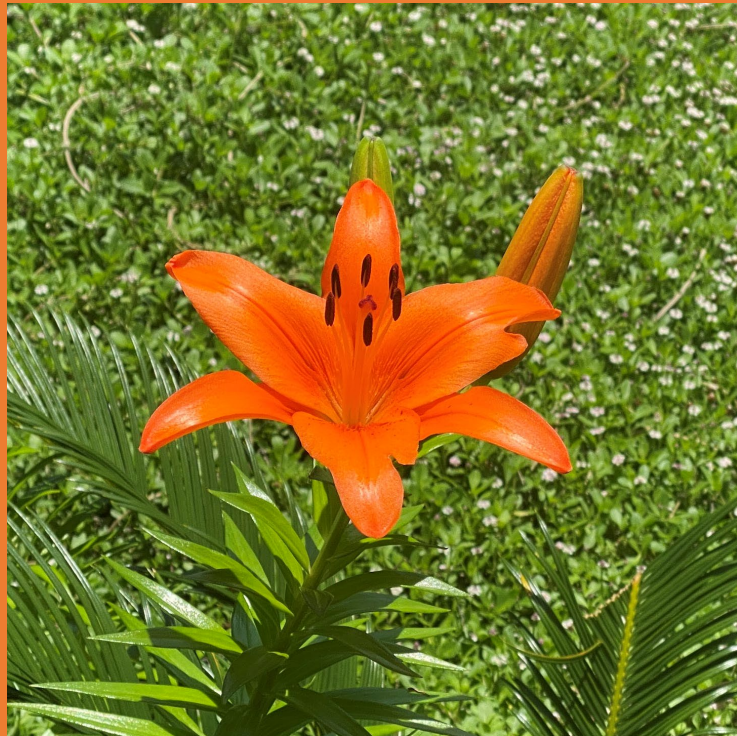
君そ来ませむ



2020年10月5日撮影 曙橋付近



# ヒメユリ 姫百合



ひめゆり 姫由理

巻:8-1500 坂上郎女(さかのうえの  
いらつらめ):

夏の野の  
茂みに咲ける  
姫由理の  
知らえぬ恋は  
苦しきものぞ

2021年10月9日撮影 曙橋付近

フヨウ 芙蓉 説あり  
日本中国



はねず 朱華

万葉集 卷11-2780 作者不詳：

山吹の  
にほへる妹が  
朱華色の  
赤裳(あかも)姿  
夢に見えつつ

2021年10月9日撮影 曙橋付近

フジ 藤



ふぢ 藤

18-4042 田辺福(さき)麻呂

藤波の  
咲き行く見れば  
ほととぎす  
鳴くづく時に  
近づきにけり

2020年10月25日 上水北公園



ノブドウ 野葡萄  
山ぶどうは別種



やまつづら 山葛

卷14-3434 作者不明：

上毛(かみつけ)野  
安蘇山葛(つづら)  
野を広み  
延(は)ひにしものを  
何(なぜ)か絶えなむ  
(よみ 諸説あり  
あそ・やまつづら／あ  
そやま・つづら)

2020年10月29日 玉川上水曙橋付近

# アカネ 茜

赤い根の意、染料、紫が赤みを帯びるから紫の枕詞



2023年11月1日 玉川上水曙橋付近

あかね 茜

卷1-0020 額田王

茜さす  
紫野の行き  
標野行き  
野守は見ずや  
君が袖振る

現代名 ツゲ 柘植



2023年11月1日撮影

つげ 黄楊

卷9-1777 播磨娘子

君なくは

なぞ身(み)装(よそ)は

む

櫛笥(くしげ)なる

黄楊の小櫛(おぐし)も

取らむとも思はず

くぬぎ橋付近



現代名 サトイモ 里芋



2020年11月4日撮影 小金井橋付近

うも 宇毛

卷10-1895 長忌寸意吉麻呂(ながのいみきおき  
まる):

蓮(はちす)葉は  
かくこそあるもの  
意吉麻呂が  
家なるものは  
宇毛(うも)の葉に  
あらし

# マツ 松

## まつ 松

卷2-0145 山上憶良：



鳥となり  
あはれ呼びつ  
見られども  
人こそ知らね  
松は知るらむ

2020年11月4日撮影 小金井橋付近 御成の松跡



# 現代名 カツラ 桂

かつら 楓 加都良

中国の伝説:月の桂は高い理想➡月桂

巻10-2202 作者不詳:



黄葉する  
時になるらし  
月人の  
楓(かつら)の枝の  
色づく見れば

2023年11月6日撮影 桜堤防災公園付近

# チカラシバ 力芝 (力芝を含む説あり)



しばくさ 芝草

卷6-1048 田辺福麻呂 :

たち変わり  
古き都と  
なりぬれば  
道の芝草  
長く生ひにけり

2023年11月10日撮影 桜堤遊歩道



ミカン科総称 説有り  
クネンボ(室町時代伝来説有り)

あへたちばな 阿倍橘

卷11-2750 作者不明:



2023年11月10日撮影 桜堤遊歩道

我妹子(わぎもこ)に  
逢はず久しも  
うましもの  
阿倍橘の  
苔生すまでに

# ササ類

ササは神降ろしのための  
聖なる植物



ささ **小竹**

卷2-0133 柿本人麻呂

小竹(こたけ)の葉は  
み山もさやに  
さやげども  
われは妹思ふ  
別れ来ぬなば

2023年11月10日撮影 桜堤遊歩道



マテバシイ 馬刀葉椎  
説有



2023年11月10日撮影 桜堤遊歩道

しい 推

卷7-1099 作者不明:

片岡の  
この向つ峰に  
推蒔かば  
今年の夏の  
陰にならむか



# シラカシ 白檀



2023年11月10日 玉川上水士

しらかし 白檀

卷10-2315 柿本人麻呂歌集:

あしひきの  
山道(ぢ)も知らず  
白檀の  
枝もとをきに  
雪の降れば

# 現代 柑橘類



2023年11月10日 桜堤遊歩道

たちばな 橘

卷6-1009 聖武天皇

橘は

実さへ花さへ

その葉さへ

枝(え)に霜降れど

いや常葉の木



# かじのき 説有

かづのき 可頭乃木

万葉集 卷14-3432 東歌(相模)



足柄の  
わを可鶏山の  
可頭乃木の  
我をかづさねも  
かづさかずとも

2023年11月12日撮影 新橋付近



フジバカマ 藤袴

秋の七草 薬草：蘭草



2023年11月16日 陣屋橋付近

ふじばかま 藤袴

卷8 - 1538 山上憶良

萩の花  
尾花葛花  
なでしこの花  
をみなへし  
また藤袴  
朝顔の花

カシワ 柏

かしわ 柏

万葉集 卷7-1134 作者不詳



2023年11月17日撮影  
グリーンパーク緑地(関前)

吉野川  
巖と柏と  
常盤なす  
我は通わむ  
万代(よろづよ)までに

# くり 栗

くり 栗

卷9-1745 作者不詳:



2023年11月18日撮影 曙公園付近

三(みづ)栗の  
那賀(なか)に向かへる  
曝(さらし)井の  
絶えず通はむ  
そこに妻もが



現代名 スゲ類  
この歌ではカサスゲ(傘菅)  
画像はカヤツリグサの一種



2023年11月21日 仙川

すげ 菅

卷11-2836 作者未詳

三鳥菅(すげ)  
いまだ苗にあり  
時待たば  
着ずやなりなむ  
三鳥菅笠

現代名 スゲ類  
画像はカヤツリグサの一種



2023年11月21日 仙川

すが 須我

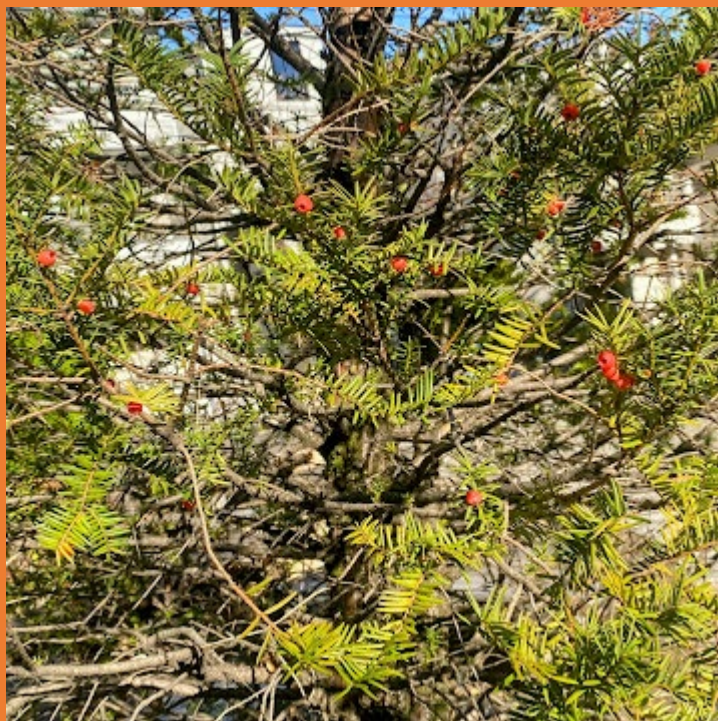
卷14-3352 作者未詳

信濃なる  
須我の荒野（あらの）に  
ほととぎす  
鳴く声聞けば  
時過ぎにけり  
（信濃国歌）

現代名 イチイ 一位

イチイガシ説もあり、両種とも食用

仁徳天皇が一位を授けたことに由来  
実は食用、ただし種、葉は有毒。弓の材料



いちひ 伊智比

巻16-3885 乞食者(ほかひ):

長歌

いとこ

汝背の君

：

この片山に

二つ立つ

伊智比(いちひ)が本に

：



現代名 イチヨウ 公孫樹  
諸説あり



2023年11月29日 境橋付近

ちち 知智

万葉集 14-4164 大伴家持:

知智(ちち)の実の  
父の命  
ははそ葉の  
母の命  
おほらかに  
心尽くして  
思ふらむ

現代名 カエデ 楓



2021年12月3日撮影 曙公園

かへるで 蛙手

卷8-1623 田村大嬢：

我が宿に  
もみつ蛙手  
見るごとに  
妹を懸けつつ  
恋ひぬ日はなし